

「私と数学」

私が初めて数学（というか、算数）に悩まされたのは小学生の頃だった。分数の足し算に相当手こずった（今でも時々）のを覚えている。以来、算数は数学と名を変え、私をいじめ続けた。忘れもしない中学2年の定期試験、私は45点という不名誉な点数を取り、数学から逃げるようになってしまった。ともあれ、高校入試は数学の配点が20%なので無視しようと思えば無視でき、実際、合格できた。

しかし、高校に入っても陰湿ないじめは続いた。三角比、複素数、ベクトル・・・あの手この手を使って（時には合わせ技で）数学は私の足を引っ張り続けたのである。数学とつきあう中で味わった挫折感、流したくやし涙は計り知れず、ときにはユークリッドやパスカルをも呪った。

高1の終わり頃、英語と国語が伸びたため、一層数学の苦手が際だちはじめ、私立文系という選択肢がちらついた。が、それは数学への敗北を意味する。一生、数学履修者に負い目を感じなくてはならなくなる。そう思って私は数学に徹底抗戦することを決めた。今までの苦戦は己の努力不足と考え、高3になってからは数学と他の4教科の比率を3:2にして勉強し、何とか目の当てられる成績にはなってきた。10問中7問の割合でしていた計算ミスも徐々に減り、数学への自信が芽生えてきたところでセンター試験が迫ってきた。

「直前演習」で80点、100点、93点、100点（平均点93点）という高得点を連続し、絶対の自信を持って臨んだ数Ⅱ・Bだが・・・39点。十の位と一の位のひっくり返ったこの数字が私の努力の成果だった。涙も出なかった。ただ言いようのない虚無感を覚えただけだった。

満点に近かった英語と地歴も数Ⅱ・Bで相殺され、総得点は模試の「予想得点」より100点も低く、私はギリギリのC判定で一次を終え、二次に取りかかった。私の志望校は無情にも数学が二次でかなりのウエイトを占めていたので、私は結局数学と心中するよりほかにはなかったのである。

二次の一週間前、数学以外の科目は光明が見えたが、数学は依然として沈黙を守っている。結局、不安を残したまま試験場に来てしまった。今までいじめたんだからせめて最後くらいはやさしくしてねと頼んだが・・・完答無し、半答2問（ボーダーは完答2問、半答1問）でお手上げ。数学はどこまでも私に冷酷だった。試験終了のサイレン。落ちたな、という思いと、数学から解放された喜びが半々であった。

数学と苦闘の中で、忍耐力、立ち直り方、集中力等々、数多くのものが身に付いた。解けた時の感動を知った。そして・・・努力は必ずしも望む形で報われるとは限らないことも知った。辛かったけど、数学をやってきて、本当に良かったと思っている。もう2度と手は出すまいが・・・数学よ、ありがとう。

「受験を終えて」ということで卒業生に書いてもらったもので、今までも通信等で出したものの一つです。当時、担任でもあり教科担任でもあった私は複雑な思いで読んだ次第です。因みに、彼の名誉のために付け加えますが志望校には見事合格しました。

4組担任 M

週行事予定表（7/9～7/18）

月	日	曜	行事予定	備考
7	9	土	進研記述模試	(7:25 登校)
	10	日	進研記述模試	(7:50 登校)
	11	月		7:25登校 B
	12	火	教科会・学年会	7:25登校 B
	13	水		7:25登校 B
	14	木	職員会議	7:25登校 B
	15	金	クラスマッチ 弁当の日 PTA父親の会（ひかり会）	8:20登校
	16	土		
	17	日		
	18	月	海の日 看護大OC	

